

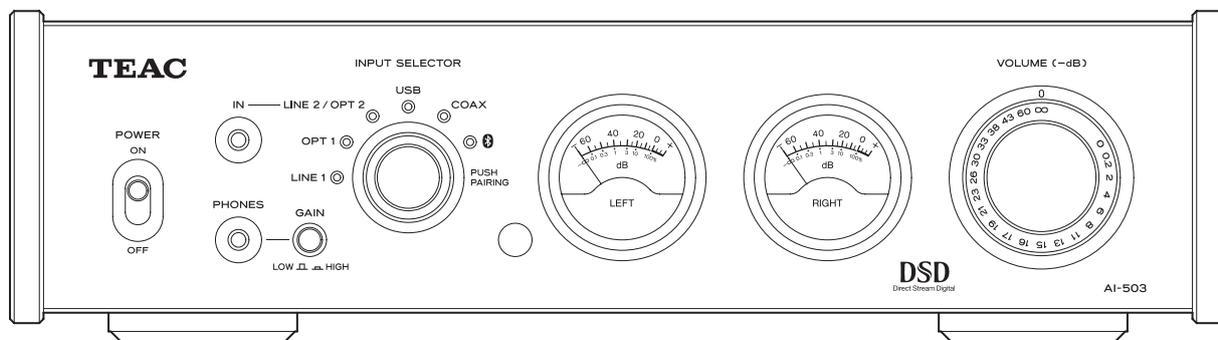
TEAC

AI-503

USB DAC/ プリメインアンプ

取扱説明書

ティアック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。
末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。



Qualcomm® aptX™

LDAC

目次

付属品	2
お使いになる前に	2
ユーザー登録について	3
お手入れ	3
電波について	3
安全にお使いいただくために	4
スピーカーの接続	7
接続 (リアパネル)	8
接続 (フロントパネル)	10
リモコンの使い方	11
各部の名前とはたらき (本体)	12
各部の名前とはたらき (リモコン)	13
基本操作	14
Bluetooth® 無線技術	16
パソコンの音楽を再生する	18
困ったときは	20
仕様	21
保証とアフターサービス	23

"DSD" is a registered trademark.

The Bluetooth® word mark and logos are registered trademarks owned by Bluetooth SIG, Inc. and any use of such marks by TEAC CORPORATION is under license.

Qualcomm aptX is a product of Qualcomm Technologies, Inc. and/or its subsidiaries.

Qualcomm is a trademark of Qualcomm Incorporated, registered in the United States and other countries. aptX is a trademark of Qualcomm Technologies International, Ltd., registered in the United States and other countries.

Microsoft and Windows are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

Apple, Mac, OS X and macOS are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

LDAC™ および LDAC ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

付属品

万一付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店、または弊社 AV お客様相談室 (裏表紙に記載) にご連絡ください。

電源コード × 1

リモコン (RC-1328) × 1

リモコン用乾電池 (単 4) × 2

取扱説明書 (本書、保証書付き) × 1

お使いになる前に

設置の注意

- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。変色や変形、故障の原因となります。

お手入れ

トップカバーやパネル面の汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠️ お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

ユーザー登録について

TEACのウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

<https://teac.jp/jp/login>

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、隣近所に迷惑をかけてしまうことがあります。

適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、お互いに快適な生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



電波について

- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として技術基準適合証明を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。
 - ・ 分解 / 改造すること
 - ・ 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと



本機は、2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し与干渉距離は10mです。本製品は日本国内でのみご使用ください。

- 本機は電波を使用しているため、第三者が故意または偶然に傍受することが考えられます。重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。通信時に、データや情報の漏洩が発生しても責任を負いかねます。予めご了承ください。
- 次の場所では本機を使用しないでください。再生音が途切れたり、ノイズが出る場合があります。
 - ・ 2.4GHz用周波数帯域を利用する、無線LAN、電子レンジ、デジタルコードレス電話、Bluetoothなどの機器の近く。電波が干渉して音が途切れることがあります。
 - ・ ラジオ、テレビ、ビデオ機器、BS/CSチューナーなどのアンテナ入力端子を持つAV機器の近く。音声や映像にノイズがのることがあります。

本機使用上の注意

本機の使用周波数は2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、免許を要する工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局や免許を要するアマチュア無線局などが運用されています。

他の機器との干渉を防止するために、以下の点に十分ご注意ください。

- ・ 本機を使用する前に、近くで他の無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・ 万一、本機と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、使用を停止してください。
- ・ 不明な点その他にお困りのことが起きたときは、お買い上げの販売店または、弊社AVお客様相談室（裏表紙に記載）へお問い合わせください。

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	警告 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 電源プラグをコンセントから抜く	<p>万一、異常が起きたら 煙が出たり、変なおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落としたり、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター(裏表紙に記載)に修理をご依頼ください。</p>
 禁止	<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重いものをのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら(芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター(裏表紙に記載)に交換をご依頼ください。</p> <p>付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p> <p>交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し(3cm以上)離して置く ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける すきまをあけないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしない 火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>
	<p>イヤホンやヘッドホンからの過度の音圧は、聴覚障害の原因となります。聴覚障害の可能性を防ぐために、長時間、高音量で聴かないで下さい。</p>
 指示	<p>電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的(年1回くらい)に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 禁止	<p>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。</p>



警告

以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



分解禁止

この機器のカバーは絶対に外さない

カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター(裏表紙に記載)にご依頼ください。

この機器を改造しない

火災・感電の原因となります。



注意

以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



電源プラグを
コンセントから
抜く

移動する場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続ケーブルを外す

ケーブルが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。

旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く

通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となる場合があります。



指示

オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する

また、接続は指定のケーブルを使用する

電源を入れる前には、音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となる場合があります。

この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする

異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。

この機器には、付属の電源コードを使用する

それ以外の物を使用すると、故障・火災・感電の原因となります。



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない

湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない

火災・感電やけがの原因となる場合があります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となる場合があります。

必ずプラグを持って抜いてください。



禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となる場合があります。

安全にお使いいただくために（続き）

電池の取り扱いについて

本製品は電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどの原因となりますので、以下の注意事項を必ず守ってください。

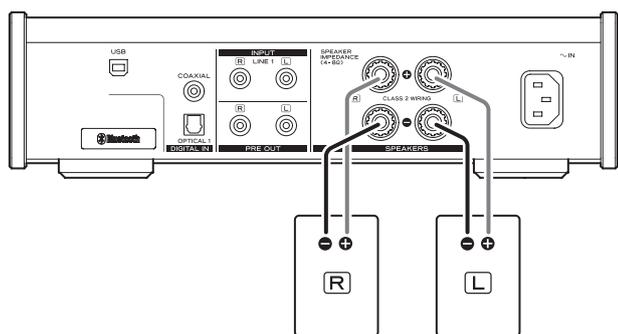
 警告 乾電池に関する警告	
 禁止	乾電池は絶対に充電しない 破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。

 警告 電池に関する警告	
 強制	電池を入れるときは、極性表示（プラス ⊕ とマイナス ⊖ の向き）に注意し、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れる 間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	長時間使用しないときは電池を取り出しておく 液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースに付いた液を良く拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一漏れた液が身体に付いたときは、水で良く洗い流してください。
 禁止	指定以外の電池は使用しない 新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない 破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚損することがあります。
	炎天下の車内や暖房器具のそばなど、温度が高くなる場所で保管しない 本体の変形によるショートや発火、故障、電池の劣化の原因となります。

 注意 電池に関する注意	
 禁止	金属製の小物類と一緒に携帯、保管しない ショートして液漏れや破裂などの原因となることがあります。
	電池を熱したり、火または水に投げ入れたりしない 電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
 分解禁止	分解しない 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

 愛情点検	電源コードや本体に異常がないか、定期的に点検してください。 内部にほこりがたまったら、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。 5年に1度は、販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）に内部の点検をご依頼ください。費用についてはお問い合わせください。
---	--

スピーカーの接続



⚠ 接続時の注意

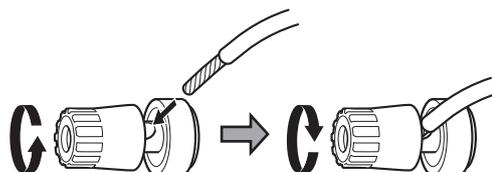
- 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。

ご注意

- 本機は公称インピーダンスが4Ωから8Ωのスピーカーに対応しています。4Ωより低いインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が働いて音が出なくなったり、場合によっては本機やスピーカーが故障する恐れがあります。
- 本機の赤い端子が⊕、黒い端子が⊖になります。スピーカーケーブルのマークがある側を本機の⊕端子に、もう片方のケーブルを⊖端子に接続してください。
- スピーカーケーブルの先端の芯線が露出している部分が、他のケーブルや端子に接触するとショートすることがあります。
- スピーカーケーブルは絶対にショートさせないでください。
- 雑音を防ぐため、スピーカーケーブルは電源コードなどその他のケーブルと一緒に束ねないでください。

接続のしかた

- 1** スピーカーケーブルの被覆を約1cmむき、芯線をよくねじる。
- 2** 接続端子のつまみを左に回して緩める。
- 3** 芯線を端子ネジにある穴に挿入し、つまみを右に回してしっかり締め付ける。



- ケーブルの被覆が端子と接触しないように接続してください。

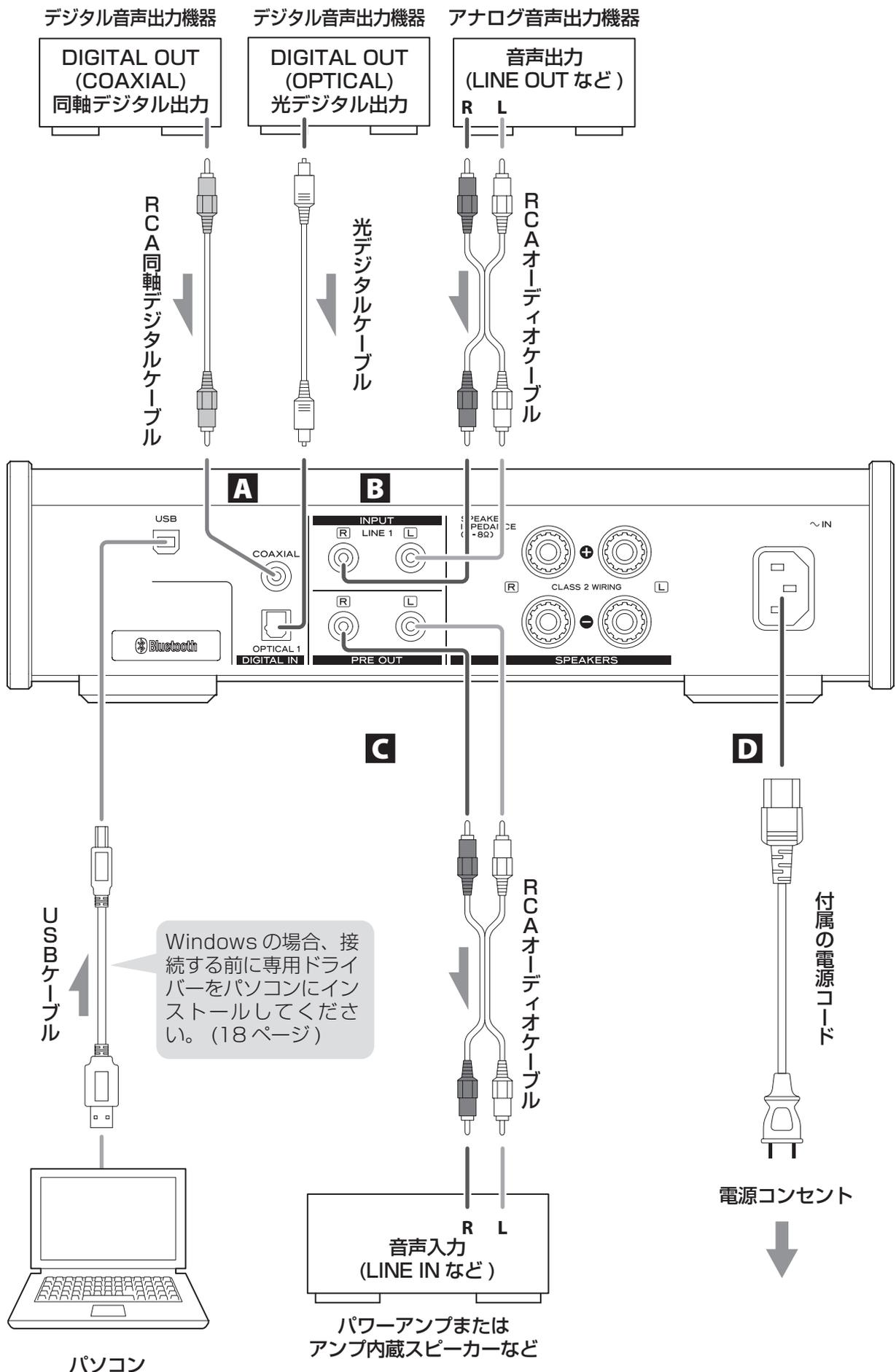
- 4** ケーブルを軽く引っ張り、しっかり挿入されているか確認する。

バナナプラグでの接続

市販のバナナプラグを使用して接続することもできます。スピーカーケーブルをバナナプラグに接続してから、プラグをターミナルに差し込みます。

- つまみを締めた状態でご使用ください。
- ご使用になるバナナプラグの説明書をよくお読みください。

接続（リアパネル）



A デジタル入力端子 (DIGITAL IN)

USB 端子 (USB)

パソコンのデジタル音声を入力します。パソコンの USB 端子と接続してください。

接続には市販の A-B タイプの USB2.0 ケーブルをお使いください。

注意

Windows パソコンと接続する場合は、必ず専用ドライバをパソコンにインストールしてから接続してください。(18 ページ)
ドライバがインストールされていないパソコンとは接続できません。

RCA 同軸デジタル音声入力端子 (COAXIAL)

デジタル音声を入力します。デジタル音声出力機器の同軸デジタル音声出力端子と接続してください。

接続には市販の RCA 同軸デジタルケーブルをお使いください。

光デジタル音声入力端子 (OPTICAL 1)

デジタル音声を入力します。デジタル音声出力機器の光デジタル音声出力端子と接続してください。

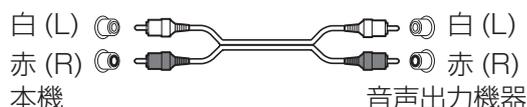
接続には市販の角形光デジタルケーブルをお使いください。

B アナログ音声入力端子 (LINE 1)

アナログ音声を入力します。この端子にカセットデッキや CD プレーヤーなどの音声出力機器の音声出力端子を接続してください。

接続には市販の RCA オーディオケーブルをお使いください。

本機の R 端子と音声出力機器の R 端子、本機の L 端子と音声出力機器の L 端子をそれぞれ接続してください。



C プリアウト音声出力端子 (PRE OUT)

本体の音量に連動して、アナログ音声を出力します。RCA 端子をパワーアンプまたはアンプ内蔵スピーカーと接続してください。

接続には市販の RCA オーディオケーブルをお使いください。

本機の R 端子とアンプの R 端子、本機の L 端子とアンプの L 端子をそれぞれ接続してください。

D 電源インレット (~ IN)

付属の電源コードを差し込んでください。

全ての接続が終わったら、電源プラグを AC100V の電源コンセントに差し込んでください。

⚠ 付属の電源コード以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

⚠ 全ての接続が終わってから電源をオンにしてください。

- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
- ノイズ発生の原因となるため、各接続ケーブルを電源コードと一緒に束ねないでください。
- 各プラグはしっかりと差し込んでください。

接続（フロントパネル）

音声入力端子 (IN-LINE2/OPT2)

アナログ (LINE2)/光 (OPT2) 接続兼用の入力端子です。

- アナログ (LINE2) と光 (OPT2) は接続されている端子によって、自動で切り換わります。

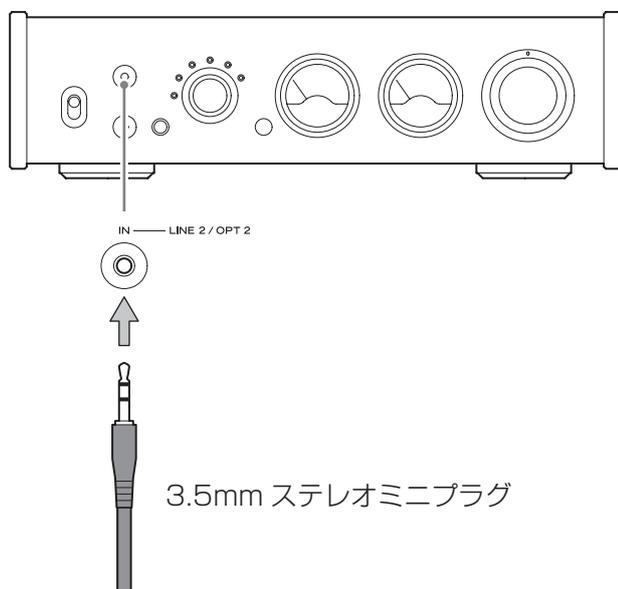
本入力を選択するには、入力切換つまみ (INPUT SELECTOR) を回して、「LINE2/OPT2」を選択してください。

アナログ接続 (LINE 2)

3.5mm ステレオミニプラグを使って、携帯型オーディオプレーヤーなどのヘッドホン端子 (または音声出力端子) と接続して、本機で音声を再生します。

接続には市販のステレオミニプラグをお使いください。

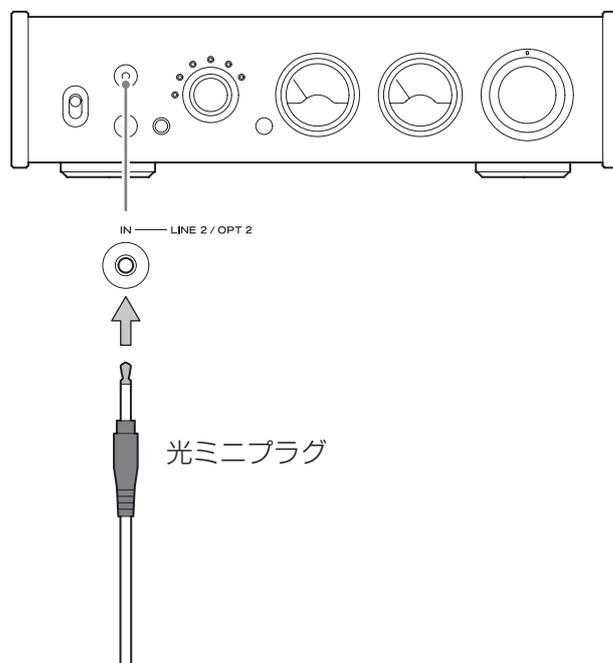
- プレーヤーのヘッドホン端子と接続した場合は、プレーヤー側の音量を調節しないと、本機から音が聞こえないことがあります。
- プレーヤー側の音量を上げすぎると、音が歪むことがあります。その場合は、まず接続した機器の音量を歪みが無くなるまで小さくしてから、本機の音量を調節してください。



光接続 (OPT 2)

デジタル音声出力機器の光デジタル音声出力端子と接続してください。

接続には市販の光ミニプラグを使用してください。



リモコンの使い方

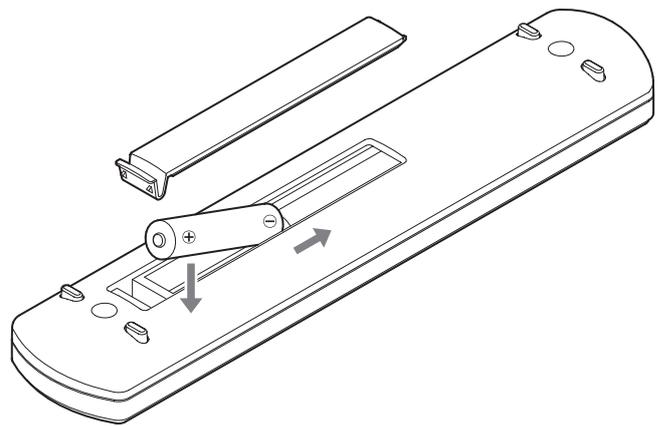
使用上の注意

! 乾電池を誤って使用すると、電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。6ページの注意をよく読んでお使いください。

- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて、5メートル以内の距離で操作してください。本体とリモコンの間には障害物を置かないでください。
- 本体のリモコン受光部に日光や照明があたると、リモコン操作ができないことがあります。その場合は本機を移動してみてください。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。

電池の入れ方

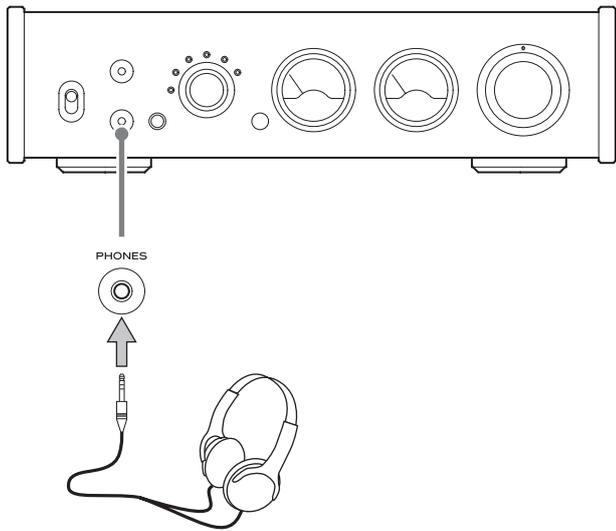
リモコン裏面のフタを外し、ケースの ⊕ と ⊖ の表示に合わせて乾電池（単4形）2本を入れて、フタを閉めてください。



電池の交換時期

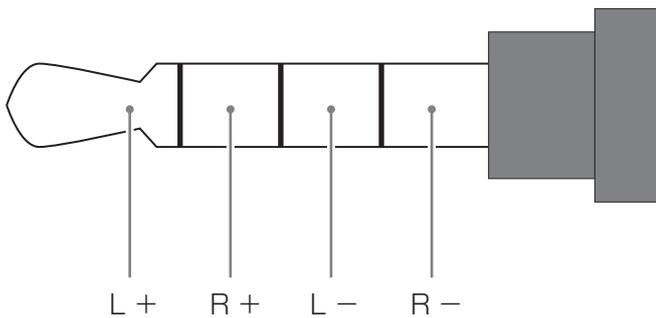
操作範囲が狭くなったり、操作ボタンを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。使い終わった電池は電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村指定の廃棄方法に従って捨ててください。

ヘッドホン端子 (PHONES)



- ヘッドホンアンプ回路のグランドをLR独立とした4極端子を採用しています。通常の3極および4極の3.5mmステレオミニプラグが使用できます。

結線図



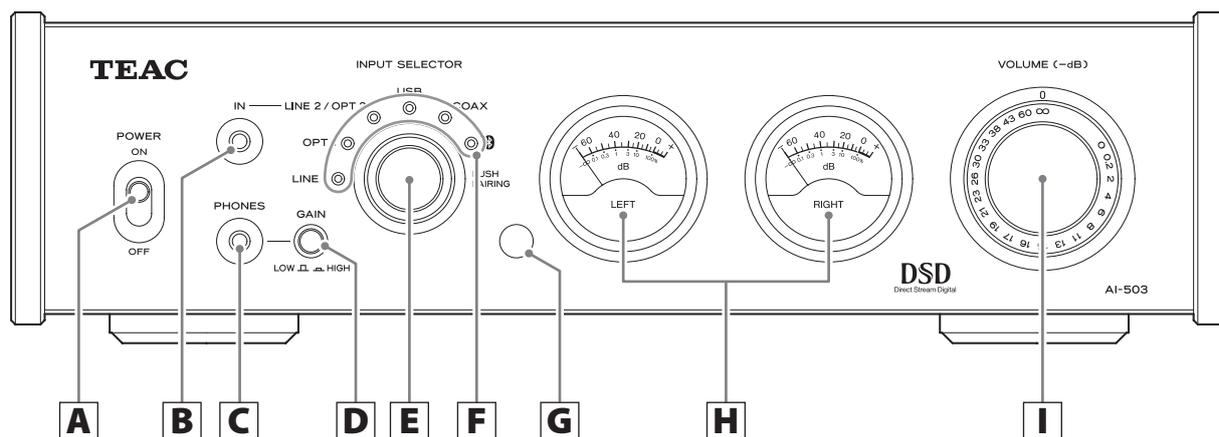
! 注意

ヘッドホンを耳に装着したまま、電源のオン/オフや、ヘッドホンプラグの抜き差し、ヘッドホンアンプのゲイン切り換えを行わないでください。

突然大きな音が出て、聴力障害の原因となることがあります。

必ず音量を最小（ $-\infty$ dB）の位置まで下げてからヘッドホンを装着してください。

各部の名前とはたらき (本体)



A 電源スイッチ (POWER)

電源をオン / オフします。

- 電源スイッチ (POWER) が ON で、入力ソースインジケータが全て消えている場合、以下の状態のいずれかになっています。
 - ・ リモコンのスタンバイ / オンボタン (STANDBY/ON) が押されたか、オートパワーセーブ機能が働いて、スタンバイ状態になっている。
 - ・ 電源コンセントが抜かれている。

電源をスタンバイ状態からオンにするには、リモコンのスタンバイ / オンボタン (STANDBY/ON) を押すか、電源スイッチ (POWER) をオフにしてから、再びオンにしてください。

B 音声入力 (IN-LINE2/OPT2)

音声を入力します。(10 ページ)

アナログ: 3.5mm ステレオミニプラグを使用してください。

光: 光ミニプラグを使用してください。

C ヘッドホン端子 (PHONES)

ヘッドホン端子 (3.5mm ステレオミニプラグ) を接続します。(11 ページ)

- ヘッドホンアンプ回路のグランドを LR 独立とした 4 極端子を採用しています。通常の 3 極および 4 極のプラグが使用できます。
- 本機にヘッドホンを接続すると、リアパネルのスピーカー端子 (SPEAKERS)、プリアウト音声出力端子 (PRE OUT) から音声が出力されなくなります。

D ゲインボタン (GAIN)

ヘッドホンアンプのゲインを切り換えます。

E 入力切替つまみ (INPUT SELECTOR)

入力ソースを切り換えます。

選択されているソースのインジケータが点灯します。

フィルター変更時や消音時などは、インジケータが点滅してその状態を表します。

- Bluetooth 選択時に押すと、ペアリング状態になります。

F 入力ソースインジケータ

G リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をリモコン受光部に向けて操作してください。

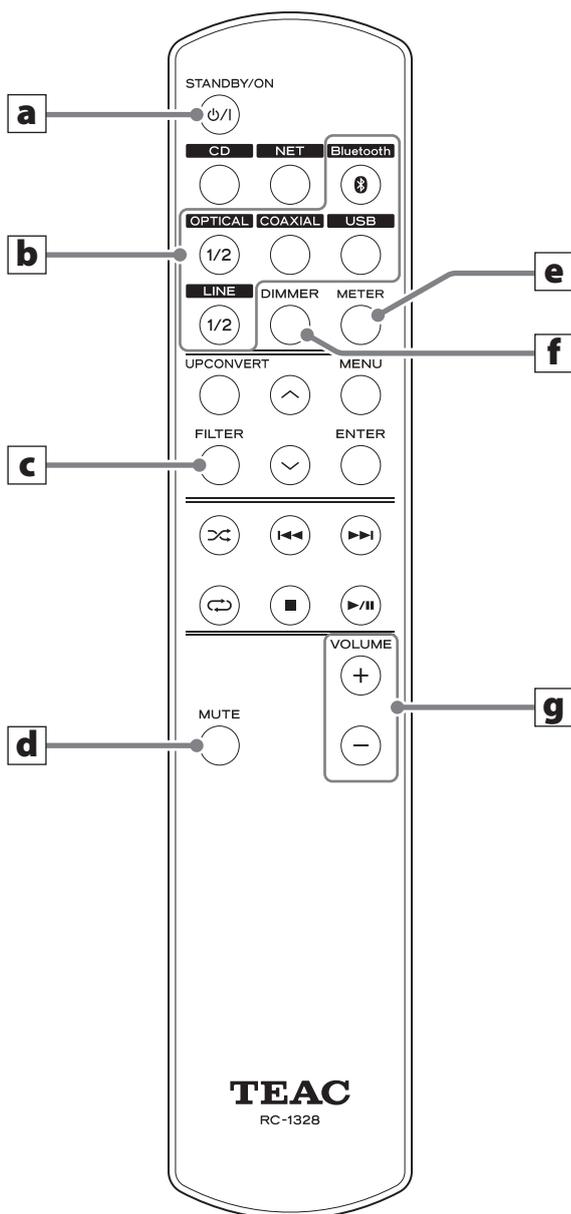
H レベルメーター

出力レベルを表示します。

I 音量つまみ (VOLUME)

接続したスピーカーやヘッドホンの音量を調節します。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

各部の名前とはたらき (リモコン)



a スタンバイ / オンボタン (STANDBY/ON)

電源をスタンバイ / オンします。

b 入力切換ボタン

再生するソースを選択します。

- 本機で CD、NET ボタンは、使用しません。

c フィルターボタン (FILTER)

フィルターの設定を変更します。

入力 (PCM か DSD) に対応したフィルターを切り換えます。(15 ページ)

d ミュートボタン (MUTE)

一時的に音を消します。(15 ページ)

e メーターボタン (METER)

レベルメーター動作のオン、オフを切り換えます。
(15 ページ)

f ディマーボタン (DIMMER)

レベルメーターと入力ソースインジケータの明るさを変更します。(15 ページ)

g 音量ボタン (VOLUME +、-)

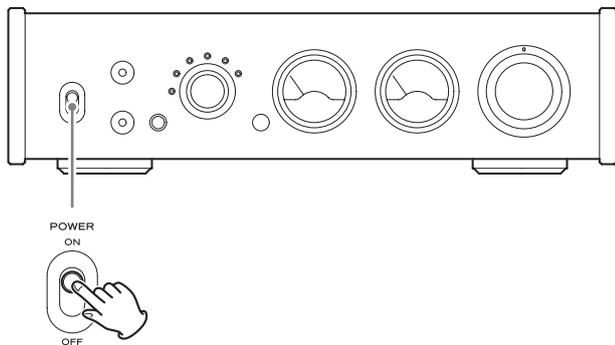
音量を調節します。

ボタンを押すと、本体の音量つまみ (VOLUME) が回転します。

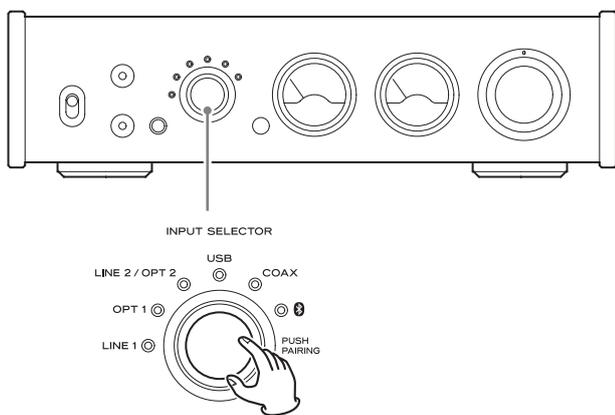
- 本体とリモコンに同じ機能のボタンがある場合、この取扱説明書ではいずれかのボタンを使って説明していますが、記載されていない方のボタンも同様に使えます。
- 本機で使用するボタンのみ説明をします。

基本操作

- 1** 電源スイッチ (POWER) を ON 側に倒して電源をオンにする。



- 2** 入力切換つまみ (INPUT SELECTOR) を回して入力ソースを選ぶ。



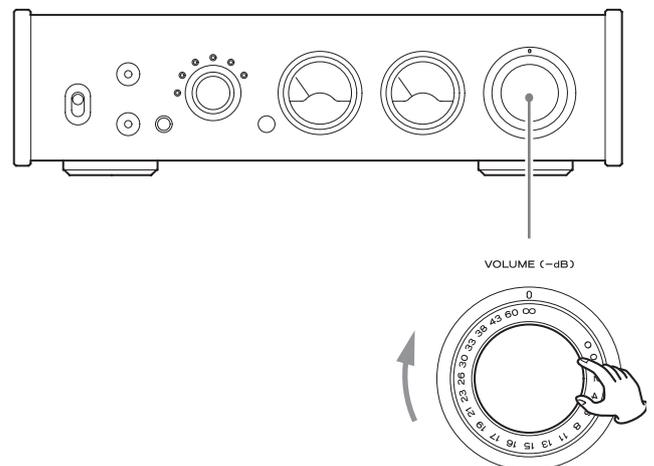
選択したソースのインジケータが点灯します。

- デジタル入力端子 (OPT1、OPT2、USB、COAX、) を選択したとき、入力信号がデジタルオーディオ信号ではないときや、DolbyDigital、DTS、AAC など本機が対応していないオーディオ信号フォーマットのときは、音声が出力されません。接続している機器のデジタル出力設定は「PCM オーディオ出力」に設定してください。
- Windows パソコンの場合、「USB」を選択してパソコンの音楽ファイルを再生するときは、接続する前に専用ドライバーをパソコンにインストールしてください。(18 ページ)
- DSD フォーマットは、USB 接続時のみ再生することができます。

- 3** 再生する機器を操作する。

各機器の取扱説明書をご覧ください。

- 4** 音量を調節する。



本機の音量つまみ (VOLUME) を回して音量を調節してください。

- リモコンの音量ボタン (VOLUME +、-) も使用できます。
- 本機にヘッドホンを接続すると、リアパネルのスピーカー端子 (SPEAKERS)、プリアウト音声出力端子 (PRE OUT) から音声が出力されなくなります。

オートパワーセーブ

本製品には、オートパワーセーブ機能があります。オートパワーセーブをオンに設定した場合、入力ソースが LINE のときは、音声入力のない状態、その他のときは、入力信号がロックされていない状態で、約 30 分以上操作しないと、スタンバイ状態になります。

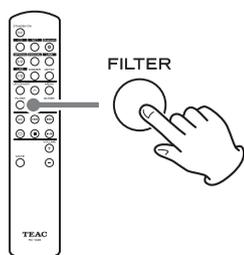
オートパワーセーブの設定状態は、電源投入直後の入力ソースインジケータの表示で確認できます。

入力ソースインジケータ全灯：オートパワーセーブオフ
入力ソースインジケータ消灯：オートパワーセーブオン

オートパワーセーブのオン、オフを切り換えるには、スタンバイ状態の時に、リモコンのスタンバイ / オンボタン (STANDBY / ON) を 3 秒間長押しするとすべての入力ソースインジケータが点滅して設定が切り換わります。

フィルター

リモコンのフィルターボタン (FILTER) を 1 回押すと、現在のフィルター設定が入力ソースインジケータの点灯で表され、続けて押すとフィルター設定が切り換わります。



フィルター設定と点灯するインジケータの対応は、以下の表を参照してください。

音源が PCM のとき

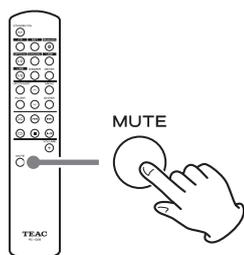
フィルター	点灯するインジケータ
OFF	LINE 1、OPT 1
FIR Sharp	OPT 1、LINE 2/OPT 2
FIR Slow	LINE 2/OPT 2、USB
Short delay Sharp	USB、COAX
Short delay Slow	COAX、

音源が DSD のとき

カットオフ周波数	点灯するインジケータ
50kHz	LINE 1、OPT 1、LINE 2/OPT 2
150kHz	USB、COAX、

消音する

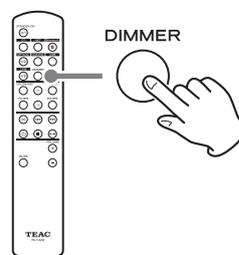
本機の音量を一時的に消音したい場合は、リモコンのミュートボタン (MUTE) を押してください。再度リモコンのミュートボタン (MUTE) を押すと消音する前の音量に戻ります。



- 消音中は、選択したソースのインジケータとその他のインジケータが交互に点灯します。

ディマー

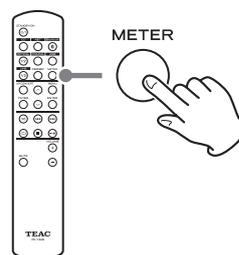
リモコンのディマー (DIMMER) ボタンを押すたびに、レベルメーターと入力ソースインジケータの明るさが変わります。



- 0 (消灯) を選択しても入力ソースインジケータは薄暗く点灯し、消灯しません。

レベルメーター

リモコンのメーターボタン (METER) を押すたびに、レベルメーター動作のオン、オフが切り換わります。



- レベルメーター動作がオフのときは、メーターのバックライトが消灯します。

Bluetooth 無線通信について

携帯電話等 Bluetooth 機器と本機の距離は約 10m 以内で使用してください。

ただし使用状況によっては通信有効範囲が短くなる場合があります。

すべての Bluetooth 機能対応製品とのワイヤレス通信を保証するものではありません。

本機と Bluetooth 対応機器との互換性については、各 Bluetooth 対応機器に付属の取扱説明書を参照するか、お買い上げの販売店または、弊社 AV お客様相談室（裏表紙に記載）にお問い合わせください。

プロファイル

本機は、以下の Bluetooth プロファイルに対応しています。

- A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)
- AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile)

Bluetooth 無線通信で音声伝送を行うには、Bluetooth 機器が A2DP に対応している必要があります。

Bluetooth 機器の再生を制御するには、Bluetooth 機器が AVRCP に対応している必要があります。

ただし、同じプロファイルに対応していても、Bluetooth 機器の仕様により、機能が異なる場合があります。

コーデック

本機は、以下のコーデックに対応しており、音声伝送時にいずれかのコーデックを自動選択します。

- SBC
- AAC
- Qualcomm® aptX™ audio
- LDAC

使用するコーデックは、Bluetooth 機器のコーデック対応や通信状況に応じて適切に選択します。

LDAC は、ソニーが開発したハイレゾ音源を Bluetooth 経由でも伝送可能とする音声圧縮技術です。

SBC 等の既存 Bluetooth 向け圧縮技術とは異なり、ハイレゾ音源を低い周波数・低いビット数へダウンコンバートすることなく処理します^{*1}。また極めて効率的な符号化やパケット配分の最適化を施すことで、従来技術比約 3 倍^{*2}のデータ量の送信を可能とし、これまでにない高音質の Bluetooth 無線伝送を実現しています。

*1：DSD フォーマットは除く。

*2：990kbps (96/48kHz) または 909kbps (88.2/44.1kHz) のビットレートを選択した場合の SBC (Subband Coding) との比較。

メモ

使用するコーデックは、ボタン操作などで選択することはできません。

Bluetooth 無線技術の特性により、Bluetooth 機器の再生に比べて本機側での再生がわずかに遅れます。

コンテンツ保護

本機は、音声伝送時のコンテンツ保護として SCMS-T に対応しており、保護された音声を再生できます。

通信セキュリティ

本機は、Bluetooth 無線通信で Bluetooth の標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応していますが、通信の秘匿性を保障するものではありません。

Bluetooth 無線通信で情報の漏洩が発生しましても、弊社は一切の責任を負いかねます。

Bluetooth 機器とペアリングする

本機を初めて使用する場合または新しい Bluetooth 機器を本機に接続する場合は、本機と Bluetooth 機器をペアリングする必要があります。

- Bluetooth 機器とのペアリングや接続は、数 m の範囲内で行ってください。距離が離れすぎた場合、ペアリングやその後の接続ができなくなる場合があります。

1 入力切替つまみ (INPUT SELECTOR) を回して、 (Bluetooth) を選択する。

Bluetooth モードになります。

- Bluetooth インジケーターが点滅し Bluetooth 機器との接続が可能な状態になります。

2 Bluetooth 機器を Bluetooth 通信状態に設定する。

3 入力切替つまみ (INPUT SELECTOR) を押してペアリングモードにする。

ペアリング状態になると、 インジケーターが速く点滅します。

4 Bluetooth 機器から、本機「AI-503」を選択し接続する。

本機をペアリング状態にしてから Bluetooth 機器側のペアリングを行ってください。

詳しくは、お使いの Bluetooth 機器の取扱説明書をご覧ください。

- 本機と Bluetooth 機器が接続状態になると、Bluetooth インジケータが点滅から点灯に変わります。

Bluetooth 機器を再生する

- 本機を初めて使用する場合または、新しい Bluetooth 機器を本機に接続する場合は、本機と Bluetooth 機器をペアリングしてください。(16 ページ)
- Bluetooth 機器とのペアリングや接続は、数 m の範囲内で行ってください。距離が離れすぎた場合、ペアリングやその後の接続ができなくなる場合があります。

1 入力切換つまみ (INPUT SELECTOR) を回して、 (Bluetooth) を選択する。

Bluetooth モードになります。

- Bluetooth インジケータが点滅し Bluetooth 機器との接続が可能な状態になります。

2 Bluetooth 機器を Bluetooth 通信状態に設定する。

本機の入力ソースを  にした時、Bluetooth 機器の電源がオンの状態で Bluetooth 機能が有効になっている場合は、自動的に接続されます。自動接続できない場合は、手動で接続を行ってください。

- 本機は  が選択されると、最後に接続された Bluetooth 機器と自動接続されます。他の Bluetooth 機器と接続したい場合は、その機器とのペアリングを行ってください。
- 本機は Bluetooth インジケータが点滅状態のまま 30 分経過すると自動的にスタンバイ状態になります。本機を使用したい場合は、再び電源をオンにする必要があります。

注意

本機、または Bluetooth 機器が接続待機状態にもかかわらず、Bluetooth インジケータの点滅状態が長く続く場合は、本機と Bluetooth 機器の両方の電源を入れなおしてから、再度接続操作を行ってください。

3 Bluetooth 機器を再生する。

Bluetooth 機器の音量が上がっていることを確認してください。再生側の音量を上げないと本機から音が出ない場合があります。

- 接続する Bluetooth 機器によっては音量調節ができない場合があります。詳しくは、Bluetooth 機器の取扱説明書をご覧ください。

4 音量つまみ (VOLUME) を回して音量を調節する。

- リモコンの音量ボタン (VOLUME +、-) も使用できます。
- 本機にヘッドホンを接続すると、リアパネルのスピーカー端子 (SPEAKERS)、プリアウト音声出力端子 (PRE OUT) から音声が出されなくなります。

パソコンの音楽を再生する

ドライバーのインストール

USB 接続できるパソコンの OS は下記のいずれかとなります。下記以外の OS での動作保証はいたしません。(2016 年 10 月現在)

Mac の場合

以下のバージョンで動作します。

OS X Lion (10.7)

OS X Mountain Lion (10.8)

OS X Mavericks (10.9)

OS X Yosemite (10.10)

OS X El Capitan (10.11)

macOS Sierra (10.12)

OS 標準のドライバーで動作します。そのため、専用ドライバー等をインストールする必要はありません。

Windows の場合

以下のバージョンで動作します。

Windows 7 (32bit 版、64bit 版)

Windows 8 (32bit 版、64bit 版)

Windows 8.1 (32bit 版、64bit 版)

Windows 10 (32bit 版、64bit 版)

専用ドライバーをパソコンにインストールする

本機でパソコンに記録されている音楽ファイルの再生を行うには、まず以下の弊社ダウンロードページより専用ドライバーをダウンロードして、パソコンにインストールする必要があります。

<専用ドライバーソフト ダウンロードページアドレス>

<https://teac.jp/jp/product/ai-503/download>

ご注意

パソコンとの USB 接続の前に専用ドライバーソフトをインストールしてください。

ドライバーインストール前にパソコンと本機を接続した場合、正しく動作させることができません。

- 専用ドライバーのインストール手順の詳細については弊社ダウンロードページをご覧ください。
- パソコンのハードウェア、ソフトウェアの構成によっては、上記の OS を使用していても動作しない場合があります。

転送モードについて

本機は HIGH SPEED アシンクロナスモードで接続します。

伝送可能サンプリング周波数は 44.1/48/88.2/96/176.4/192/352.8/384kHz です。

正しく接続されると、OS のオーディオの出力先として、「TEAC USB AUDIO DEVICE」が選択可能になります。

- アシンクロナスモードでは、パソコンから送出されたオーディオデータを本機側のクロックを使って処理しますので、データ伝送時のジッターを抑制することができます。

再生アプリケーションソフト「TEAC HR Audio Player」のダウンロード

DSD ファイルに対応した再生アプリケーションソフト「TEAC HR Audio Player」(Mac 版、Windows 版)を以下の弊社ダウンロードページよりダウンロードして、お使いいただくことができます。

<アプリケーションソフト「TEAC HR Audio Player」ダウンロードページアドレス>

https://teac.jp/jp/product/hr_audio_player/download

TEAC HR Audio Player の設定について

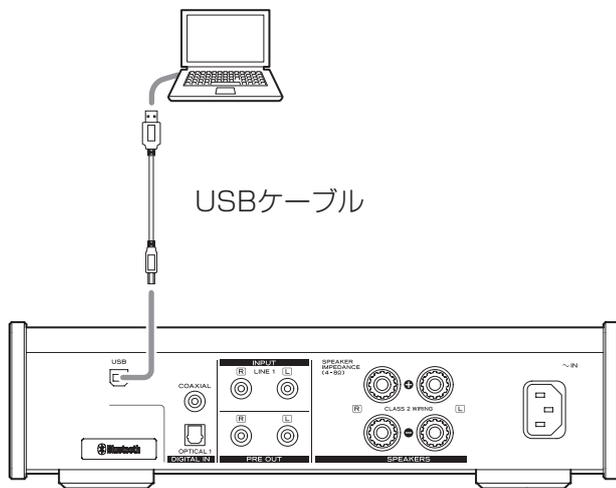
TEAC HR Audio Player で、DSD11.2MHz を再生する場合、[Configure] ウィンドウの [Decode mode] の項目で、[DSD Native] を選択してください。

DSD11.2MHz を再生しない場合は、[DSD over PCM] もしくは [DSD Native] を選択することができますので、好みの再生方式を選択してください。

詳しくは、TEAC HR Audio Player 取扱説明書の「DSD 再生方式の選択」をご覧ください。

パソコン内の音楽ファイルを再生する

1 USBケーブルでパソコンと本機を接続する。

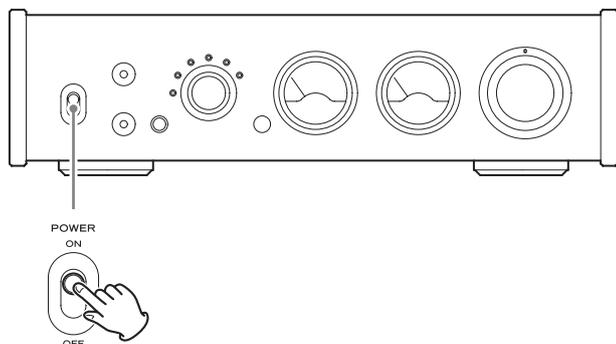


- 接続には市販の A-B タイプの USB2.0 ケーブルをお使いください。

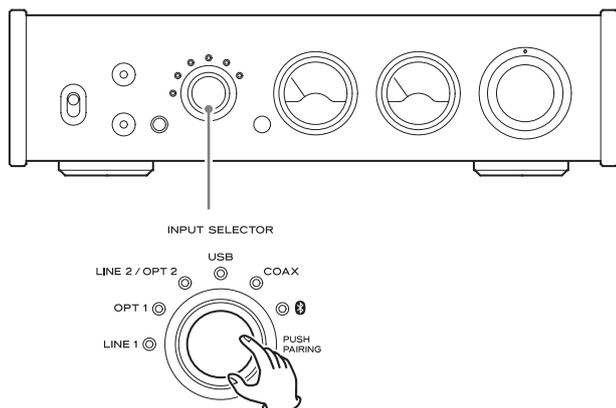
2 パソコンの電源をオンにする。

- OS が正常に起動できたことを確認してください。

3 電源スイッチ (POWER) を ON 側に倒して電源をオンにする。



4 入力切換つまみ (INPUT SELECTOR) を回して、「USB」を選ぶ。



5 パソコンで音楽ファイルの再生を開始する。

パソコン側の音量調整は最大に設定して、本機の音量を調整するとより良い音質が得られます。

本機の音量は再生開始時には最小にし、徐々に大きくして調整してください。

本機にヘッドホンを接続して使用する場合は、ヘッドホンを接続後、音量つまみ (VOLUME) を反時計回りに回して音量を最小にしてからヘッドホンを装着し、音量を徐々に大きくして調整してください。

- パソコンから本機をコントロールしたり、本機からパソコンをコントロールすることはできません。
- USB 接続で音楽ファイルを再生しているときに、以下の操作を行わないでください。パソコンの誤動作の原因となります。これらの操作は必ず音楽再生ソフトを終了してから行ってください。
 - ・ USB ケーブルを抜く
 - ・ 本機の電源をオフにする
 - ・ 本機の入力を切り換える
- USB 接続で音楽ファイルを再生しているときは、パソコンの操作時のサウンドも再生されます。操作時のサウンドを再生したくない場合は、パソコン側で設定を行ってください。
- 音楽再生ソフトを起動した後で本機とパソコンを接続したり、本機の入力を「USB」に設定した場合は、音楽ファイルが正しく再生できないことがあります。この場合は、音楽再生ソフトを再起動するか、パソコンを再起動してください。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご連絡ください。

一般

電源が入らない

- ➔ 電源コードがきちんと電源に接続されているか、差し込みが不完全ではないかを確認してください。コンセントがスイッチ式の場合、オンになっているか確認してください。
- ➔ コンセントに他の電気機器を接続して、電気が供給されているかを確認してください。
- ➔ オートパワーセーブ機能でスタンバイ状態になっている場合は、リモコンのスタンバイ / オンボタンを押すと電源がオンになります。

音が出ない

- ➔ 音量つまみ (VOLUME) で音量を調節してください。右側に回すと音量が上がります。
- ➔ 入力切替つまみ (INPUT SELECTOR) で聴きたいソースを選んでください。
- ➔ 外部機器の接続をもう一度確認してください。

ブーンというノイズが聞こえる

- ➔ 接続ケーブルの近くに電源コードや蛍光灯等がある場合は、本機からできるだけ遠ざけてください。

ヘッドホンの片側からしか音がでない

- ➔ ヘッドホンプラグが奥まで差し込まれているかチェックしてください。

急に音が出なくなった

レベルメーターの照明が点滅して音が出ない

- ➔ 発熱により保護回路が動作したと考えられます。一旦電源スイッチを OFF にし、数分経ってから再度電源を入れて下さい。
- ➔ スピーカーケーブルの+と-がショートしている可能性があります。電源を切り、スピーカーとの接続を確認してください。

オートパワーセーブにより電源がスタンバイになった

- ➔ 一旦電源スイッチを OFF にし、再度電源を入れて下さい。

パソコンとの接続

パソコンで本機が認識されない

- ➔ 対応するパソコンの OS は、18 ページをご覧ください。対応していない OS での動作保証はいたしかねます。

雑音がある

- ➔ 音楽ファイル再生中に他のアプリケーションを起動すると、音が途切れたり、ノイズが発生する場合があります。再生中は他のアプリケーションを起動しないでください。
本機とパソコンを USB ハブなどを介して接続していると雑音ができることがあります。そのような場合は、本機とパソコンを直接接続してください。

音楽ファイルが再生できない

- ➔ パソコンと本機を接続して、本機の入力を「USB」に切り換えてから、音楽再生ソフトを起動して再生を開始してください。
音楽再生ソフトを起動した状態で本機とパソコンを接続したり、本機の入力を「USB」に切り換えた場合は、音楽データが正しく再生できないことがあります。

本機はマイコンを使用していますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源プラグをコンセントから抜き、しばらくしてから再び電源を入れて操作しなおしてください。

仕様

スピーカー出力

最大出力	40W + 40W (4Ω, 1kHz, 10%, JEITA) 20W + 20W (8Ω, 1kHz, 10%, JEITA)
定格出力	28W + 28W (4Ω, 1kHz, 1%, JEITA) 15W + 15W (8Ω, 1kHz, 1%, JEITA)
スピーカー適合インピーダンス	4Ω ~ 8Ω
全高調波歪率	0.005% 以下 (1kHz, 8Ω, 1W)
S/N 比	100dB 以上 (アナログ入力, 8Ω 負荷, 定格出力時, A-Weight)
周波数特性	10Hz ~ 100kHz +1/ - 3dB (8Ω, 1W, アナログ入力)

プリアウト音声出力

RCA 端子	1 系統 (L/R)
出力インピーダンス	150Ω
周波数特性	10Hz ~ 100kHz +1/ - 3dB (アナログ入力, 200mVrms 出力時)
S/N 比	103dB 以上 (アナログ入力, 1kHz/2Vrms 出力時, A-Weight)
全高調波歪率	0.005% 以下 (アナログ入力, 1kHz/2Vrms 出力時, LPF20kHz)

ヘッドホン出力

3.5mm 4 極ステレオミニジャック	1
実用最大出力	280mW + 280mW (GAIN : HIGH, 32Ω 負荷, 歪率 10%)
適合負荷インピーダンス	16 ~ 600Ω

アナログ音声入力

RCA 端子	1 系統 (L/R)
入力インピーダンス	30kΩ
最大入力	2Vrms
3.5mm ステレオミニジャック *	1
入力インピーダンス	22kΩ
最大入力	2Vrms

デジタル音声入力

同軸デジタル (COAXIAL)	
RCA 端子	1
光デジタル (OPTICAL)	
角型コネクター	1
丸型コネクター *	1 (- 24.0 ~ - 14.5dBmpeak)
USB-B 端子	1 (USB2.0 準拠)
PCM データ サンプリング周波数	
同軸デジタル (COAXIAL)	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz
光デジタル (OPTICAL)	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz
USB	44.1/48/88.2/96/176.4/192/ 352.8/384kHz

量子化ビット数

同軸デジタル (COAXIAL)/ 光デジタル (OPTICAL)	16/24 ビット
USB	16/24/32 ビット
DSD データ サンプリング周波数	
同軸デジタル (COAXIAL)/ 光デジタル (OPTICAL)	2.8MHz (176.4kHz/24bit DoP 伝送で対応)
USB	2.8/5.6/11.2MHz

* アナログ (LINE2)/ 光 (OPT2) 接続兼用の入力コネクターです。

Bluetooth 部

Bluetooth バージョン	4.0
出力クラス	Class2 (見通し通信距離 *: 約 10m)
対応プロファイル	A2DP、AVRCP
対応 A2DP コーデック	SBC、AAC、 Qualcomm® aptX™ audio、LDAC
A2DP コンテンツ保護	SCMS-T
ペアリングメモリ数	最大 8

* 通信距離は目安です。周囲の環境や電波状況により変わる場合があります。

仕様（続き）

一般

電源	AC 100V (50/60Hz)
消費電力	38W
待機時電力	0.5W 以下 (スタンバイ)
外形寸法	290 x 81.2 x 264 (mm) (WxHxD、突起部を含む)
質量	3.7kg
許容動作温度	+ 5℃～+ 35℃
許容動作湿度	5%～85% (結露のないこと)
許容保管温度	- 20℃～+ 55℃

付属品

電源コード × 1
リモコン (RC-1328) × 1
リモコン用乾電池 (単 4) × 2
取扱説明書 (本書、保証書付き) × 1

- 仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス

■ 保証書

取扱説明書の裏表紙が保証書になっています。保証書は、お買い上げの際に販売店が所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。万が一販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無償修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店・ご購入日が確認できるものを一緒に保管してください。保証期間はお買い上げ日より1年です。

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。

■ ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にお問い合わせください。

■ 修理を依頼されるときは

20ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご連絡ください。

なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。

保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。

測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。

部品代：修理に使用した部品代金です。

その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。

その他：製品を送るために必要な送料/梱包料などがあります。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：USB DAC/ プリメインアンプ

AI-503

シリアルナンバー：

お買い上げ日：

販売店名：

お客様のご連絡先

故障の状況（できるだけ詳しく）

■ 廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。

この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

保証書

品名	USB DAC/ プリメインアンプ		
および名	AI-503		
機種番			
保証期間	本体	1年	
お買上げ日	年	月	日
お客様	お名前		
	〒		
	ご住所		
	電話	()	

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買上げの販売店に修理をご依頼ください。

お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

所在地	名称 (印)
販売店	電話 ()



無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理いたします。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。無償修理の対象は、お客さまが日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
- ご転居、ご贈答品等でお買上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
- 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
 - ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - お買上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
 - 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - 接続している他の機器に起因する故障および損傷
 - 業務用の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷

- (6) メンテナンス
 - (7) 本書の提示がない場合
 - (8) 本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名 (印) の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
6. 本書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※ この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの (保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。

※ 保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間についての詳細は、取扱説明書をご覧ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47 <https://teac.jp/jp>

この製品のお取り扱い等についてのお問い合わせ

AV お客様相談室 〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47



0570-000-701

● 携帯電話、またはナビダイヤルがご利用頂けない場合

電話：042-356-9235 / FAX：042-356-9242

受付時間は、9:30～12:00/13:00～17:00です。

(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障・修理や保守についてのお問い合わせ

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田 858



0570-000-501

● 携帯電話、またはナビダイヤルがご利用頂けない場合

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

受付時間は、9:30～17:00です。

(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

● 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。